

令和4年度 福祉サービス第三者評価における「さらなる改善が望まれる点」への対応

No.	【 医療型児童発達支援センター(通園) 】		担当部署	回答内容等
1	タイトル	状況の変化に対応して、施設・設備の改善や利用者の減少傾向に対する対策を検討することが望まれます	通園科	<p>[現状]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設備面に関しては、利用する児童の状況を踏まえて、使いやすくなるよう必要な改修等を適宜行っている。 ・就労している保護者の増加や単独通園への希望が多いことなどから、入園希望は減少傾向にある。 <p>[考え方]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単独通園への希望や就労している保護者が増えている状況に対して、対応の必要があることは認識している一方で、親子の愛着関係を構築する上で低年齢児親子の支援も重要な役割と考えている。どのような支援が適切なものか、今後の在り方について検討を重ねていく。
	内容	子どもの障害の程度は様々ですが、医療的ケアを必要とする重症心身障害児の割合が4割を超えるようになってきました。日常動作の介助量も多いので、保護者の負担を少しでも軽減するために施設・設備の改善が課題の一つになっています。利用者の状況の変化に対し設備等の改修を行って来てはいますが、トイレ設備など十分とはいえない状況にあります。また、社会経済の変化の中で、親子通園の施設は利用希望者が減少する傾向が見られる状況にあるように思われます。このような課題について、長期的な観点から検討することが望まれます。		
2	タイトル	重症心身障害児者の医療・療育の総合的な専門施設として、引き続き地域支援・在宅支援の機能強化に取り組んでいかれるよう期待します	通園科	<p>[現状]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療面では、医師・看護師が医ケアの確認と安全に過ごせることを目的に、地域資源との連携を図りながら対応している。 ・療育面では、地域の相談支援や併用施設と連携を図りながら多角的な支援を行っている。 <p>[考え方]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療面では、保護者や主治医と連携し、児の体調を安定させ、より簡素なケアに変更できるようにするなど、生活面にも配慮した支援を行う。 ・都立施設として地域支援は重要な役割と考えており、保育所等訪問支援事業等も活用しながら地域との連携をより一層図っていく。
	内容	病院機能を基盤とした重症心身障害児者の医療・療育の総合的専門施設として、地域療育支援・在宅療育支援の強化を課題としています。現在行っている保育所等訪問支援、訪問看護導入時支援、地域療育支援講座、講師派遣等とともに、関係機関・事業所等との連携強化、医療・療育ノウハウの提供、利用者・家族支援等の地域支援・在宅支援機能を高めたいと考えています。利用者の重症化・高齢化、保護者の高齢化等による介護力の低下への対応、医療的ケア児及び家族支援の充実等、難しい課題が多いと思われそうですが、今後のさらなる取り組みに期待します。		
3	タイトル	建築後30年以上経過し、施設設備の老朽化が課題となっています。施設改修等について計画的に検討を進めていかれるよう望みます	庶務担当	<p>[現状]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者へのサービスに影響が出ないよう、施設・設備の維持管理や補修、更新等に随時対応している。 ・オーダーリングシステムを令和3年度に導入するなど機器のシステム化を進めており、情報の一元化や支援の時間確保などのサービス向上を図っている。 <p>[考え方]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者からの意見等を踏まえて、より一層安全で過ごしやすい環境を整備できるよう、施設・設備を適正に管理していく。 ・都の関係部局と協議しながら計画的な補修や更新に努めるとともに、施設の改築等の検討を進める。
	内容	センター建築後30年以上が経過し、施設設備の老朽化が進み、計画的な施設改修の検討を課題としています。修繕、設備の補修等その都度対応していますが、利用者数増や重症化等に伴う医療機器等の増・ベッド台数の増等による施設の狭隘化、エリア不足等、各療育現場での課題も多いようです。「R4年度センター取組目標」にも「老朽化した施設・設備への対応として、センター改築に向けた検討を、障害者施策推進部と共に進めていく」とあります。利用者により良い療育が提供できる設備・環境となるよう、検討を積極的に進めていくことが望まれます。		

令和4年度 福祉サービス第三者評価における「さらなる改善が望まれる点」への対応

No.	【生活介護(通所)】		担当部署	回答内容等
4	タイトル	送迎と入浴に対する対策は、利用者の増加と重症化の中で大事な課題となっており、引き続き対策を検討することが望まれます	通所	<p>[現状]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者を安全に送迎できるよう、6台中4台を看護師添乗にするとともに、複数職員添乗やピストン送迎など様々な対応を行っている。また、ストレッチャー型車椅子の増加により、5名乗車予定のバスに4名しか乗車できないケースもある。 ・入浴中もほとんどの看護師と福祉の職員が支援しているため、入浴しない利用者の活動や見守りを行う職員が十分ではない。 <p>[考え方]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・送迎バス全6台への看護師の添乗や、入浴後の処置や見守りを行う人員の配置など、事業をより一層安全に実施するための執行体制を確保し、より良い生活介護サービスを提供していく。
	内容	送迎と入浴に対する対策は、利用者の増加と重症化の中で引き続き課題となっています。送迎は、広域の地域をカバーしているため運行時間が長く、ルートの設定に苦労する状況です。利用者の要望に応えながら、安全な送迎を行うために引き続き対策の研究・検討が望まれます。入浴は利用者の要望も強く、人数の増加は入浴時間と入浴後の処置時間の増加になり、職員の対応体制の問題にもつながります。また、単に入浴だけのことでなく、日中の活動にも影響する問題です。早めに対策を検討することが望まれます。		
5	タイトル	重症心身障害児者の医療・療育の総合的な専門施設として、引き続き地域支援・在宅支援の機能強化に取り組んでいかれるよう期待します	通所	<p>[現状]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域で医ケアのある利用者の受入を進める施設に対して、研修受入を行ってきた。 ・地域での受入は進みつつあるが、障害の程度が重く、医ケアの重篤な利用者が当センターを利用するケースが増えている。 ・在宅支援に関しては、在宅支援室とも協力しながら、御家族の思いに沿って社会資源とつながれるよう相談支援事業所等と連携している。 <p>[考え方]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も近隣区やその区内施設等を研修等で支援し、医ケアの必要な在宅重症心身障害者の社会参加をバックアップする役割を担っていく。 ・そのために、引き続き在宅支援室とともに、訪問医や訪問看護事業所、相談支援事業所との連携強化を図っていく。
	内容	病院機能を基盤とした重症心身障害児者の医療・療育の総合的専門施設として、地域療育支援・在宅療育支援の強化を課題としています。現在行っている保育所等訪問支援、訪問看護導入時支援、地域療育支援講座、講師派遣等とともに、関係機関・事業所等との連携強化、医療・療育ノウハウの提供、利用者・家族支援等の地域支援・在宅支援機能を高めたいと考えています。利用者の重症化・高齢化、保護者の高齢化等による介護力の低下への対応、医療的ケア児及び家族支援の充実等、難しい課題が多いと思われませんが、今後のさらなる取り組みに期待します。		
6	タイトル	建築後30年以上経過し、施設設備の老朽化が課題となっています。施設改修等について計画的に検討を進めていかれるよう望みます	庶務担当	<p>[現状]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者へのサービスに影響が出ないよう、施設・設備の維持管理や補修、更新等に随時対応している。 ・オーダリングシステムを令和3年度に導入するなど機器のシステム化を進めており、情報の一元化や支援の時間確保などのサービス向上を図っている。 <p>[考え方]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者からの意見等を踏まえて、より一層安全で過ごしやすい環境を整備できるよう、施設・設備を適正に管理していく。 ・都の関係部局と協議しながら計画的な補修や更新に努めるとともに、施設の改築等の検討を進める。
	内容	センター建築後30年以上が経過し、施設設備の老朽化が進み、計画的な施設改修の検討を課題としています。修繕、設備の補修等その都度対応していますが、利用者数増や重症化等に伴う医療機器等の増・ベッド台数の増等による施設の狭隘化、エリア不足等、各療育現場での課題も多いようです。「R4年度センター取組目標」にも「老朽化した施設・設備への対応として、センター改築に向けた検討を、障害者施策推進部と共に進めていく」とあります。利用者により良い療育が提供できる設備・環境となるよう、検討を積極的に進めていくことが望まれます。		

令和4年度 福祉サービス第三者評価における「さらなる改善が望まれる点」への対応

No.	【 医療型障害児入所施設(旧重症心身障害児施設)(B1) 】		担当部署	回答内容等
7	タイトル	移動介助業務の負担軽減のために常勤職員の定数確保、移動用機器の導入に取り組むことが望まれます	看護科 B1病棟	<p>[現状]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移動介助リフトや移動用スライダーを使用し、人力に頼らない移動移乗介助及び2人介助を推奨している。 ・看護師確保に努める一方で、令和5年度より医療作業委託を導入し、看護補助者は看護師とともに利用者の直接ケアに当たるようタスクシフトしている。 <p>[考え方]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活支援のためには移乗・移動動作は必須で、頻度も高い援助となっており、利用者の安全や職員の負担軽減のため、移動用器具の積極的かつ継続的な使用を通じて、2人介助を徹底していく。 ・職員自身で定期的に腰痛体操などを行うよう職場で周知し、負担が蓄積しないよう職員に働きかけていく。
	内容	利用者は全員が車椅子を使用しています。日常ケアにおける移動介助業務は職員の身体への影響が大きく、腰痛や腱鞘炎などの体調不良を抱えながら業務を行っている職員が多いようです。常勤職員の定数確保と移動用機器の導入を積極的に行い、職員負担の軽減を図ることが望まれます。		
8	タイトル	重症心身障害児者の医療・療育の総合的な専門施設として、引き続き地域支援・在宅支援の機能強化に取り組んでいかれるよう期待します	看護科 B1病棟	<p>[現状]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多職種による個別療育支援会議を利用者ごとに年1回開催している。利用者個々の課題に焦点を当てて意見交換を行っており、今後の方向性を検討し、情報共有している。 ・高齢化している保護者への対応については、面会に来られる方には面会時間を配慮しており、面会に来ることが困難な方には利用者の日頃の様子などを担当の看護師から伝えている。 <p>[考え方]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の医療・療育を継続的に支えていくためには、院内の多職種連携は必要不可欠であり、利用者個々の課題を共有して、多職種で継続的に関わっていく。 ・面会の可否に関わらず、高齢化している御家族に利用者の様子を伝え、安心していただけるよう努めていく。
	内容	病院機能を基盤とした重症心身障害児者の医療・療育の総合的専門施設として、地域療育支援・在宅療育支援の強化を課題としています。現在行っている保育所等訪問支援、訪問看護導入時支援、地域療育支援講座、講師派遣等とともに、関係機関・事業所等との連携強化、医療・療育ノウハウの提供、利用者・家族支援等の地域支援・在宅支援機能を高めたいと考えています。利用者の重症化・高齢化、保護者の高齢化等による介護力の低下への対応、医療的ケア児及び家族支援の充実等、難しい課題が多いと思われれますが、今後のさらなる取り組みに期待します。		
9	タイトル	建築後30年以上経過し、施設設備の老朽化が課題となっています。施設改修等について計画的に検討を進めていかれるよう望みます	庶務担当	<p>[現状]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者へのサービスに影響が出ないよう、施設・設備の維持管理や補修、更新等に随時対応している。 ・オーダリングシステムを令和3年度に導入するなど機器のシステム化を進めており、情報の一元化や支援の時間確保などのサービス向上を図っている。 <p>[考え方]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者からの意見等を踏まえて、より一層安全で過ごしやすい環境を整備できるよう、施設・設備を適正に管理していく。 ・都の関係部局と協議しながら計画的な補修や更新に努めるとともに、施設の改築等の検討を進める。
	内容	センター建築後30年以上が経過し、施設設備の老朽化が進み、計画的な施設改修の検討を課題としています。修繕、設備の補修等その都度対応していますが、利用者数増や重症化等に伴う医療機器等の増・ベッド台数の増等による施設の狭隘化、エリア不足等、各療育現場での課題も多いようです。「R4年度センター取組目標」にも「老朽化した施設・設備への対応として、センター改築に向けた検討を、障害者施策推進部と共に進めていく」とあります。利用者により良い療育が提供できる設備・環境となるよう、検討を積極的に進めていくことが望まれます。		

令和4年度 福祉サービス第三者評価における「さらなる改善が望まれる点」への対応

No.	【 医療型障害児入所施設(旧肢体不自由児施設)(B3) 】		担当部署	回答内容等
10	タイトル	利用者の支援をより充実していくために、引き続き職員体制の充実と人材の育成に取り組むことが望まれます	看護科 B3病棟	<p>[現状]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門性を高めるために重症心身障害学会・院内研修の重症心身障害者看護専門コース(2年間)等に参加。 ・日本看護協会認定看護師や公益社団法人日本重症心身障害者福祉協会認定の重症心身障害看護師が、日々ケアの助言や職員育成に関わっている。 ・精神的、心理的なサポートが必要な児童に対しては精神科医の助言や臨床心理士からの学習会を開催し、知識の向上に努めている。 ・令和5年度より医療作業委託を導入し、看護補助者は看護師とともに利用者の直接ケアに当たるようタスクシフトしている。 <p>[考え方]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門研修は外部講師や院内認定看護師等が講師となり、看護実践力の向上やリーダー育成を目指し、引き続き実施していく。 ・精神的、心理的支援についての学習を積極的に行い、適切なケアの構築を行う。
	内容	利用者の7割は重症心身障害児で、措置児も多くいます。幼児、学童、卒後児と年齢の幅も広く、複数介助が必要な児童もいて、状態像の多様化に対応して、精神面を含めて適切なケアを行うことが課題となっています。家族関係に困難を抱える児童に対する支援も重要な課題です。このような課題に対応するために、医師や看護師等職員の確保・定着及び職員の専門的な力量の向上が重要であり、引き続き、職員体制の充実や人材の育成に取り組むことが望まれます。		
11	タイトル	重症心身障害児者の医療・療育の総合的な専門施設として、引き続き地域支援・在宅支援の機能強化に取り組んでいかれるよう期待します	看護科 B3病棟	<p>[現状]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍においても時間や人数の設定や、密を避けるなど感染状況に対応しながら、面会の継続を図っている。 ・MSWを通じて児童相談所と情報交換を実施している。保護者との面会時は児童相談所職員やMSW・病棟看護師長等が必要に応じて同席している。 ・障害者支援センターや地域の保育園との交流を実施している。 ・幼児1名が地域の幼稚園へ入園し、同年代幼児との関わりを通して成長・発達につなげている。令和5年度より院内支援会議では幼稚園も参加し、情報の共有を図っている。 <p>[考え方]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童への愛着形成を促進できるよう、保護者に対して面会時に入所中の様子や支援会議の内容、学校との連携状況等について丁寧に説明、報告するとともに、家庭復帰も視野に入れながら日々のケアを実践していく。 ・各種制度を活用しながら、入所児の社会的成長を促していく。
	内容	病院機能を基盤とした重症心身障害児者の医療・療育の総合的専門施設として、地域療育支援・在宅療育支援の強化を課題としています。現在行っている保育所等訪問支援、訪問看護導入時支援、地域療育支援講座、講師派遣等とともに、関係機関・事業所等との連携強化、医療・療育ノウハウの提供、利用者・家族支援等の地域支援・在宅支援機能を高めたいと考えています。利用者の重症化・高齢化、保護者の高齢化等による介護力の低下への対応、医療的ケア児及び家族支援の充実等、難しい課題が多いと思われませんが、今後のさらなる取り組みに期待します。		
12	タイトル	建築後30年以上経過し、施設設備の老朽化が課題となっています。施設改修等について計画的に検討を進めていかれるよう望みます	庶務担当	<p>[現状]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者へのサービスに影響が出ないよう、施設・設備の維持管理や補修、更新等に随時対応している。 ・オーダリングシステムを令和3年度に導入するなど機器のシステム化を進めており、情報の一元化や支援の時間確保などのサービス向上を図っている。 <p>[考え方]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者からの意見等を踏まえて、より一層安全で過ごしやすい環境を整備できるよう、施設・設備を適正に管理していく。 ・都の関係部局と協議しながら計画的な補修や更新に努めるとともに、施設の改築等の検討を進める。
	内容	センター建築後30年以上が経過し、施設設備の老朽化が進み、計画的な施設改修の検討を課題としています。修繕、設備の補修等その都度対応していますが、利用者数増や重症化等に伴う医療機器等の増・ベッド台数の増等による施設の狭隘化、エリア不足等、各療育現場での課題も多いようです。「R4年度センター取組目標」にも「老朽化した施設・設備への対応として、センター改築に向けた検討を、障害者施策推進部と共に進めていく」とあります。利用者により良い療育が提供できる設備・環境となるよう、検討を積極的に進めていくことが望まれます。		

令和4年度 福祉サービス第三者評価における「さらなる改善が望まれる点」への対応

No.	【 短期入所 】		担当部署	回答内容等
13	タイトル	短期入所の利用ニーズの高まりに対応できるよう、職員体制の確保と人材育成に取り組むことが望めます	庶務担当 看護科	<p>[現状]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学・看護専門学校の実習生や医師の研修の受入、年2回のインターシップの実施、就職説明会への参加、ホームページ等を通じた広報活動など様々な取組を実施し、各職種の人材の確保に努めている。 ・新規採用職員には、都職員としての研修のほか、当センターにおいても転入研修を実施し、支援に当たっての基本的な知識や情報を教示している。 ・看護師については、一般的な看護師としての教育は、院内外の研修参加や、ナーシングスキルなどの教材を活用することで、看護の質の向上に努めている。重症心身障害看護としての教育は、都主催の看護師基礎講座の受講や院内の医療職による研修の受講により専門性を高めている。 <p>[考え方]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重症心身障害や療育の分野は支援に当たって専門性が高い分野である一方、施設数は多くなく希少な分野である。こうした分野があることを多くの人に知ってもらえるよう、今後も様々な取組を実施していく。 ・職場の状況について、採用前の想像と採用後の実態に新人職員がギャップを感じないように丁寧な育成を行うとともに、定着に向けたイベント等を企画・実施していく。
	内容	最近、短期入所の利用希望者が増えており、そのすべてを希望どおり受け入れることが難しくなっています。そのため日程の調整や利用期間の短縮をお願いするケースも出てきているようです。今後も円滑に受け入れていくためには職員体制の確保等が課題になっています。特に、医師や看護師等、医療スタッフの確保・定着が重要であり、併せて研修の充実や人材育成体制の整備にも取り組んでいくことが必要と思われる。利用ニーズの高まりに対応するために、職員体制の確保と人材の育成に力を入れて取り組むことが望めます。		
14	タイトル	重症心身障害児者の医療・療育の総合的な専門施設として、引き続き地域支援・在宅支援の機能強化に取り組んでいかれるよう期待します	医療社会 事業担当 在宅支援室	<p>[現状]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本人の状態や保護者の状況など、利用希望者の背景や課題は様々であり、ニーズが多様化している。 ・短期入所のケアを通じて、利用者に関わる関係機関との連携に努めている。 ・利用者の介護状況を確認して、必要に応じて地域の在宅支援事業者につなげている。 <p>[考え方]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の重症化・高齢化、保護者の高齢化等、利用者の様々なニーズに応えられるよう、他のサービスとも連携しながら短期入所サービスの充実を図っていく。 ・利用者や保護者の意向に沿って地域の事業者と連携しながら、在宅生活を支援していく。
	内容	病院機能を基盤とした重症心身障害児者の医療・療育の総合的専門施設として、地域療育支援・在宅療育支援の強化を課題としています。現在行っている保育所等訪問支援、訪問看護導入時支援、地域療育支援講座、講師派遣等とともに、関係機関・事業所等との連携強化、医療・療育ノウハウの提供、利用者・家族支援等の地域支援・在宅支援機能を高めたいと考えています。利用者の重症化・高齢化、保護者の高齢化等による介護力の低下への対応、医療的ケア児及び家族支援の充実等、難しい課題が多いと思われませんが、今後のさらなる取り組みに期待します。		
15	タイトル	建築後30年以上経過し、施設設備の老朽化が課題となっています。施設改修等について計画的に検討を進めていかれるよう望みます	庶務担当	<p>[現状]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者へのサービスに影響が出ないよう、施設・設備の維持管理や補修、更新等に随時対応している。 ・オーダリングシステムを令和3年度に導入するなど機器のシステム化を進めており、情報の一元化や支援の時間確保などのサービス向上を図っている。 <p>[考え方]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者からの意見等を踏まえて、より一層安全で過ごしやすい環境を整備できるよう、施設・設備を適正に管理していく。 ・都の関係部局と協議しながら計画的な補修や更新に努めるとともに、施設の改築等の検討を進める。
	内容	センター建築後30年以上が経過し、施設設備の老朽化が進み、計画的な施設改修の検討を課題としています。修繕、設備の補修等その都度対応していますが、利用者数増や重症化等に伴う医療機器等の増・ベッド台数の増等による施設の狭隘化、エリア不足等、各療育現場での課題も多いようです。「R4年度センター取組目標」にも「老朽化した施設・設備への対応として、センター改築に向けた検討を、障害者施策推進部と共に進めていく」とあります。利用者により良い療育が提供できる設備・環境となるよう、検討を積極的に進めていくことが望めます。		